

寿楽つうしん

平成25年7月号

平成25年7月発行

発行 老人福祉センター菊名寿楽荘
発行責任者 富田 公道
横浜市港北区菊名3-10-20
TEL 045(433)1255

一年に 一夜と思へど 七夕の 逢ひ見む秋の かぎりなきかな 紀貫之

織女牽牛伝説

夜空に輝く天の川のほとりに、天帝の娘で織女と呼ばれるそれは美しい天女が住んで居ました。織女は、天を支配している父天帝の言いつけをよく守り、毎日機織りに精を出していました。織女の織る布はそれはみごとで、五色に光り輝き、季節



の移り変わりと共に色どりを変える不思議な錦です。天帝は娘の働きぶりに感心していましたが、年頃の娘なのにお化粧一つせず、恋をする暇もない娘を不憫に思い、天の川の西に住んでいる働き者の牽牛という牛飼いの青年と結婚させることにしました。こうして織女と牽牛の二人は、新しい生活を始めました。しかし、結婚してからの織女は牽牛との暮しに夢中で毎日しやぎまわってばかり。機織りをすっかり止めてしまったのです。天帝も始めはこんな二人の様子を新婚だからと大目にみていましたが、いつまでもそんな有様がずっと眉をひそめざるを得ません。天帝はすっかり腹を立ててしまい、二人の所へ出向くと、「織女よ、はたを織ることが天職であることを忘れてしまったのか。心得違いをいつまでも放っておく訳にはいかない。再び天の川の岸辺に戻って機織りに精を出しなさい」更に付け加えて...「心を入れ替えて一生懸命仕事をするなら年に1度、7月7日の夜に牽牛と会うことを許してやろう」と申し渡しました。織女は牽牛と離れて暮すのがとても辛く涙にくれるばかりでしたが、父天帝に背く事もできず、牽牛に別れを告げると、うな垂れて天の川の東に帰って行きました。それ以来、自分の行いを反省した織女は年に1度の牽牛との再会を励みに、以前のように機織りに精を出すようになりました。牽牛も勿論思いは同じ、働いて働いて...7月7日を待ちました。こうして、牽牛と織女は互いの仕事に励みながら、指折り数えて7月7日の夜を...ところが、2人が待ち焦がれた7月7日に雨が降ると、天の川の水かさが増して、織女は向こう岸に渡るができなくなります。川下に上弦の月がかかっている、つれない月の舟人は織女を渡してはくれません。二人は天の川の東と西の岸辺にたまたみ、お互いに切ない思いを交しながら川面を眺めて涙を流すのでした。7月7日に雨が降れば...そんな2人を見かね何処からともなくかささぎの群が飛んできて、天の川で翼と翼を広げて橋となり、織女を牽牛のもとへ渡す手助けをしてくれるのだそうです。

今月の和歌の解説

【通釈】織姫と彦星が会えるのは、一年にたったの一晩だけだけど、2人が会い続けるこの秋は、未来永劫いつまでも続くんだなあ。こう捉えれば七夕の物語は決して悲しいものではないんだ。(＊今と少し違うのは、旧暦の7月7日は秋だから、七夕は秋の季節)

【補記】きのつらゆき(871?—946) 紀望行の子。幼名を「内教坊の阿古久曾(あこくそ)」と称したという。[1]貫之の母が内教坊出身の女子だったので、貫之もこのように称したのではないかといわれる。

延喜5年(905年)、醍醐天皇の命により初の勅撰和歌集である『古今和歌集』を紀友則・壬生忠岑・凡河内躬恒と共に編纂し、仮名による序文である仮名序を執筆した。(真名序を執筆したのは紀淑望)「やまとうたは人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける」で始まるこの仮名序は、後代の文学に大きな影響を与えた。また『小倉百人一首』にも和歌が収録されている。理知的分析的歌風を特徴とし、家集『貫之集』を自撰した。日本文学史上において、少なくとも歌人として最大の敬意を払われてきた人物である。種々の点でその実例が挙げられるが、勅撰歌人としては『古今和歌集』(101首)以下の勅撰和歌集に435首の和歌が入集しているのは[2]他の歌人に比べて最高数であり、三代集時代の絶対的権威者であったといえる。

夏バテ予防に夏野菜の効果は絶大です!

夏バテ予防や改善の対策に夏野菜は優れた効果があります。薬味野菜で知られる「ねぎ」「しょうが」「しそ」「みょうが」などは、殺菌効果や、食欲増進などの効果があり、夏バテの症状に出やすい食欲不振を解消して食欲増進などに効果があります。夏野菜の、きゅうり、スイカ、メロンなどの瓜(うり)類の野菜は、体を冷やしてくれて暑さ対策、夏バテ予防に効果的な食べ物です。





7月のスケジュール



日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	太極拳	つるし雑	椅子に座って エクササイズ	横浜郷土史	英会話 水彩画	歴史講座
7	8	9	10	11	12	13
卓球開放			ウクレレ教室 健康相談	歌声教室	英会話 編物教室 健康麻雀	初めての書道
14	15	16	17	18	19	20
卓球開放			椅子に座って エクササイズ 栄養相談	横浜郷土史	英会話 水彩画	歴史講座
21	22	23	24	25	26	27
卓球開放		休館日	ウクレレ教室 健康相談	歌声教室	編物教室 健康麻雀	初めての書道
28	29	30	31			
卓球開放	太極拳	つるし雑	卓球開放			

打ち上げ花火と参議院選挙の関係は？

2013年夏、また花火大会の季節がやってきました。今年、この時期には参議院選挙が行われます。そこで、花火とかけて...と、今日の小断は最近流行のなぞかけでいってみましょう。

花火とかけてなんと解く。

花火とかけて選挙と解く。

そのころは？どちらもきけんがあります。花火はときに事故があるように、危険がつきもの。選挙もまた、棄権が少なくないのが現実です。

皆さんも選挙は棄権しないようにしましょうね！



ふれあい七夕まつり開催！

菊名寿楽荘では、菊名保育園の園児とのふれあいを目的に、ふれあい七夕まつりを開催します。菊名寿楽荘利用者の皆さん、ごそってご参加下さい。

日時：7月5日(金) 9:40～11:10

場所：菊名寿楽荘 大広間

内容：園児とのふれあい
腹話術
三味線演奏など

詳しくは館内のご案内参照



七夕の発祥の地は大阪？

1年にたった一度、7月7日に天の川で織姫と牽牛が会えるという七夕。大阪・交野から枚方にかけては銀河にたとえられた「天野川」が流れ、織姫と牽牛ゆかりの地も残る、七夕伝説のふるさとといわれています。大阪府の東北部に位置する交野市から枚方市にかけては平安の頃、交野ヶ原と呼ばれ貴族たちを魅了する風光明媚な狩獵地でした。この一帯を流れる天野川は生駒山系に源を発し、生駒市、四條畷市を経て交野市、枚方市を流れ、淀川に合流する一級河川。天野川の名は、古代このあたりが甘くおいしい米が実る肥沃な野という意味で甘野(あまの)と呼ばれていたことに由来して、甘野川とされていたのがいつしか天野川となったようです。白く輝く川砂と澄んだ流れが空の天の川を思わせることから、天野川は多くの古典文学に書かれてきました。中でも有名なのは、伊勢物語にある在原業平(ありはらのなりひら)の「狩りくらし 棚機乙女(たなばたつめ)に宿からむ 天の河原にわれは来にけり(狩をして日が暮れてしまったので、今夜は織姫の家に泊まりましょう。天の川に来てしまったのだから)」という歌。同行していた紀有常(きのありつね)が「ひととせにひとたび来ます君待てば宿かす人もあらじとぞ思ふ(1年に一度訪れる彦星を待つ身であるから宿は貸してもらえまい)」と返したとあり、当時すでに七夕伝説が浸透していたようです。そうやってみると、織姫も牽牛も大阪弁だったはずで、織姫「どないや？」牽牛「生きとったん？」織姫「忙しいて、かなわんかったわ」牽牛「そら、なんぎやなア」織姫「ほな、さいなら」牽牛「また来てや」という会話をしていたのでしょうか？

[編集後記]

